

## ○国道151号新城バイパスについて

国道151号は、飯田市を起点として豊橋市に至る約140kmの主要幹線道路で、愛知県内では、東三河地域の山間部から国道1号を南北に繋ぐ幹線道路であり、県としても東三河地域の山間部の生活を支える生命線として道路改良を、新城・豊川市域において産業振興を支える社会基盤としてバイパス整備を、重点的に進めているところです。

新城市における国道151号の現道は、市の中心市街地を通過しており、幅員が狭い上に屈曲部も多く、家屋が密集し、歩道もない区間もあり危険な状況でした。そこで、将来の交通量増加等を考慮して、新城市の市街地を北に迂回した全長約9kmの新城バイパスを整備することとしました。

### 【新城バイパス全体図】



### 【今後の展開】

平成26年度開通予定の新東名高速道路(新城IC(仮称))にアクセスすることで、人・物の広域的な交流が促進され新たな地域連携に大きな期待がかけられています。

### 【新城バイパス今回開通区間】



旧国道(現県道)のS字カーブ部



新城B P開通区間(北から南を望む)



新城B P開通区間(南から北を望む)

### 【国道151号 新城バイパス 今回開通による効果】

- ①通過時間 旧道経由で約7分が このバイパスで約3分 (4分の時間短縮)
- ②区間距離 旧道経由で3.9kmが このバイパスで2.9km (約3割の距離短縮)  
※①、②いずれも今回まで迂回していた区間(新城東高校前交差点～<sup>きよいた</sup>清井田交差点)で算定したものです。
- ③高速アクセス 現在、建設が進められている新東名高速道路の新城IC(仮称)へのアクセス道路として利用ができることとなります。
- ④安全性向上 市街地から通過交通を排除し、交通の安全性が向上します。